

別記様式第1号の2の3（第31条の3関係）

消防用設備等（特殊消防用設備等）設置届出書									
令和〇年〇月〇日									
うるま市消防長 殿									
届 出 者									
住 所 うるま市字大田〇〇番地〇〇									
氏 名 うるま 太郎									
下記のとおり、消防用設備等（特殊消防用設備等）を設置したので、消防法第17条の3の2の規定に基づき届け出ます。									
記									
設置者	住 所		うるま市みどり町〇丁目〇番〇号 電話（098）000 - 0000						
	氏 名		うるま 太郎						
対 象 物	防 火 対 象 物	所 在 地	うるま市字大田〇〇番地〇〇						
		名 称	うるまの家						
		用 途	5項イ 民泊（旅館業）						
		構 造、規 模	〇〇 造地上 〇階地下 〇階 床面積 100.00m ² 延べ面積 190.00m ²						
消防用設備等（特殊消防用設備等）の種類			消火器・特定小規模施設用自動火災報知設備・誘導灯						
工 事	種 別	新 設、増 設、移 設、取替え、改 造、その他（ ）							
	施 工 者 住 氏 所 名	住 所	うるま市みどり町〇丁目〇番〇号 電話（098）000 - 0000						
		氏 名	うるま 次郎						
	消防設備士	住 所	うるま市みどり町〇丁目〇番〇号 電話（098）000 - 0000						
		氏 名	うるま 三郎						
		免 状	種類等	交付知事	交付年月日	講習受講状況			
			甲・種類 乙	沖縄 都道府県	〇〇年〇月〇日 第〇〇 - 〇〇号	交付番号	受講地	受講年月	
完 成 年 月 日	令和〇年〇月〇日								
※受 付 欄			※決 裁 欄				※備 考		

- 備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
- 2 消防用設備等設計図書又は特殊消防用設備等設計図書は、消防用設備等又は特殊消防用設備等の種類ごとにそれぞれ添付すること。
- 3 ※欄には、記入しないこと。

別記様式 1

防火対象物
製造所等 } の概要表

建築物の概要						
名 称	うるまの家		所 在 地	うるま市字大田〇〇番地〇〇		
用 途	5 項イ	階数（階層）	地上	2 階	地下	- 階 塔屋 - 階
主要構造部	耐火構造・準耐火構造・その他（ ）				延 べ 面 積	190.00m ²
階 別	床 面 積 (m ²)	用途又は室名	構 造	内 装 仕 上 げ		特 記 事 項
				天 井	壁	
1 階	100.0m ²	宿泊施設	木造	ビニルクロス（準不燃）	ビニルクロス（準不燃）	
2 階	90.0m ²	宿泊施設	木造	ビニルクロス（準不燃）	ビニルクロス（準不燃）	
そ の 他						

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A 4 とすること。
2 消防用設備等の設置に係る階について、各階ごとに記入すること。

別記様式第 1

消 火 器 試 験 結 果 報 告 書															
実施日 令和〇〇年 〇月 〇日															
実施者															
住 所 うるま市みどり町〇丁目〇番〇号															
氏 名 うるま 太郎															
用 途	(5) 項イ ・ 民泊 (旅館業)							構 造	耐火構造で内装制限したもの その他						
延べ面積	190.00 m ²			必要能力単位		2		緩和対象の消火設備				有 無			
付加設置部分の有無		有 (少量危険物・指定可燃物・電気設備・火気使用設備) 無													
階	用 途	消火器の種別及び個数							能 力 単 位			結 果			
		a	b	c	d	e	f	合計	A	B	C	適応性	設置場所等	標 識	機 器
1	宿泊室、他	1						1	2	3	-	良	良	良	良
2	宿泊室、他	1						1	2	3	-	良	良	良	良
合 計								2	4	6					
備 考	ABC粉末消火器 (蓄圧式) × 2本 設置場所：1 階玄関 2 階トイレ前														

備考 1 この用紙の大きさは、日本工業規格 A 4 とすること。

2 選択肢のある欄は、該当する事項を○印で囲むこと。

3 a は粉末消火器、b は泡消火器、c は強化液消火器、d は二酸化炭素消火器、e はハロゲン化物消火器及び f は水消火器をいう。また、能力単位 C 欄は、該当する消火器が設置してある場合に○印で記入すること。

4 付加設置すべき部分がある場合には、各階ごとに、用途の欄にその部分を記入すること。

5 結果の欄には、良否を記入すること。

特定小規模施設用自動火災報知設備試験結果報告書													
試験実施日 令和〇年 〇月 〇日													
試験実施者													
住 所 うるま市みどり町〇丁目〇番〇号													
氏 名 うるま 太郎													
用 途	(5) 項イ ・ 民泊 (旅館業)												
延べ面積	190.00 m ²		階 数	地上 2階 地階 - 階									
受 信 機	蓄積式・二信号式・アナログ式・自動試験機能付き・遠隔試験機能付き・無線式・その他 ()												
	P・GP型		級	回線数	R・GR型					自火報点数	点・その他点数	点・予備点数	点
	定格電圧	AC		V・DC		V							
	予備電源	NiCd・その他 ()		V		AH							
発 信 機	型		級	屋内型	個	屋外型	個						
		(無線式)		型	級	屋内型	個	屋外型	個				
中 継 器	アナログ式・蓄積式・自動試験機能付き・遠隔試験機能付き・無線式・他 ()		回線	予備電源		有 (V AH)・無	設置台数	台					
	アナログ式・蓄積式・自動試験機能付き・遠隔試験機能付き・無線式・他 ()		回線	予備電源		有 (V AH)・無	設置台数	台					
	アナログ式・蓄積式・自動試験機能付き・遠隔試験機能付き・無線式・他 ()		回線	予備電源		有 (V AH)・無	設置台数	台					
	アナログ式・蓄積式・自動試験機能付き・遠隔試験機能付き・無線式・他 ()		回線	予備電源		有 (V AH)・無	設置台数	台					
	アナログ式・蓄積式・自動試験機能付き・遠隔試験機能付き・無線式・他 ()		回線	予備電源		有 (V AH)・無	設置台数	台					
感 知 器	機 種			自	遠	種 別	個 数						
	光電式 スポット型 (無線式・連動型・警報機能付き)			○		2種	9個						
	定温式 スポット型 (無線式・連動型・警報機能付き)			○		特種	1個						
	式 型 ()					種	個						
	式 型 ()					種	個						
	式 型 ()					種	個						
	式 型 ()					種	個						
	式 型 ()					種	個						
	式 型 ()					種	個						
	式 型 ()					種	個						
音 響 装 置	種 別	種 類	電 圧	電 流	個 数								
	主音響装置 (内蔵されているものを除く。)		DC	V	mA	個							
	副音響装置 (内蔵されているものを除く。)		DC	V	mA	個							
	地 区 音 響 装 置		DC	V	mA	個							
			DC	V	mA	個							
	放送設備との連動		有 ・ 無										
鳴 動 方 式		一斉鳴動 ・ 区分鳴動											

試 験 項 目			種 別 ・ 容 量 等 の 内 容	結 果
外 観 試 験	警戒区域	警 戒 区 域 の 設 定	_____	○
	受 信 機	設 置 場所等	設 置 場 所	
			周 围 の 状 況 ・ 操 作 性	_____
			設 置 状 況	_____
		構 造 ・ 性 能		_____
		操 作 部		床面からの高さ _____ m
		予 備 品 等		_____
	中 継 器	設 置 場 所 等		
		構 造 ・ 性 能		_____
		予 備 品 等		_____
	電 源 (電池を除く。)	常 用 電 源		AC _____ V
		非 常 電 源 の 種 別		非常電源専用受電設備・蓄電池設備
	感 知 器	警 戒 状 況 ・ 設 置 状 況 ・ 構 造 ・ 性 能	差 動 式 ス ポ ッ ト 型	_____
			定 温 式 ス ポ ッ ト 型	_____ ○
			補 償 式 ス ポ ッ ト 型	_____
			熱 複 合 式 ス ポ ッ ト 型	_____
			熱 ア ナ ロ グ 式 ス ポ ッ ト 型	_____
			煙 感 知 器 (ア ナ ロ グ 式 を 除 く。)	_____ ○
			イ オン 化 ア ナ ロ グ 式 ス ポ ッ ト 型	_____
			光 電 ア ナ ロ グ 式 ス ポ ッ ト 型	_____
			熱 煙 複 合 式 ス ポ ッ ト 型	_____
			炎 感 知 器	_____
	発 信 機	設 置 場 所 等		_____
		構 造 ・ 性 能		_____
	表 示 灯	設 置 場 所 等		_____
		構 造		_____
	地 区 音 響 装 置	設 置 場 所 等		_____
		構 造		_____

試 験 項 目			種 別 ・ 容 量 等 の 内 容	結 果	
機 能 試 験	配 線	共 通 線 試 験		_____	
		送 り 配 線 試 験	試 験 回 線 — 1	_____	
			試 験 回 線 — 2	_____	
			試 験 回 線 — 3	_____	
	無 線 設 備		通 信 試 験	_____	良
	受 信 機	火 災 表 示 試 験	火 災 表 示 状 況	_____	
			保 持 機 能	_____	
			2 信 号 式 の 機 能	_____	
			蓄 積 式 の 機 能	_____	
		注 意 表 示 試 験	注 意 表 示 状 況	_____	
		設 定 表 示 温 度 試 験	設 定 表 示 温 度 等	_____	
		回 路 導 通 試 験		_____	
		同 時 作 動 試 験	常 用 電 源 使 用 時	_____	
			予 備 電 源 使 用 時	_____	
		感 知 器 作 動 試 験	自 動 試 験 機 能 を 有 す る も の	_____	
	遠 隔 試 験 機 能 を 有 す る も の		_____		
	予 備 電 源 試 験	電 源 自 動 切 替 機 能	_____		
		電 圧		V	
	非 常 電 源 試 験	電 源 自 動 切 替 機 能	_____		
	付 属 装 置 試 験		_____		
	相 互 作 動 試 験	相 互 通 話 状 況	_____		
		地 区 音 響 装 置 鳴 動 状 況	_____		
	中 継 器	設 定 表 示 温 度 試 験	設 定 表 示 温 度 等	_____	
		回 路 導 通 試 験		_____	
		予 備 電 源 試 験 (予 備 電 源 を 有 す る も の)	電 源 自 動 切 替 機 能	_____	
			電 圧		V
	感 知 器		作 動 試 験	(その 2) による	
発 信 機		作 動 試 験	_____		
地 区 音 響 装 置	鳴 動 方 式 試 験		_____		
	作 動 試 験		(その 2) による		
備 考					

備考 1 この用紙の大きさは、日本工業規格 A 4 とすること。

2 選択肢のある欄は、該当する事項を○印で囲むこと。

3 非常電源（内蔵型以外のもの）及び配線についての試験結果報告書を添付すること。

4 蓄積式中継器の機能試験は、感知器の作動試験及び発信機の作動により確認するものとする。

5 複合式の感知器の試験は、それぞれの種別に応じて行うものとする。

特定小規模施設用自動火災報知設備

(その2)

感知器設置場所		差 動 式 ス ポ ッ ト 型	補 償 式 ス ポ ッ ト 型	定 温 式 ス ポ ッ ト 型	煙感知器		多 熱 複 合 式 ス ポ ッ ト 型	信 煙 複 合 式 ス ポ ッ ト 型	号 熱 煙 複 合 式 ス ポ ッ ト 型	式 その 他 の 多 信 号 感 知 器	アナログ式		炎 感 知 器	地 区 音 響 装 置	結 果	
受 信 機 の 表 示 番 号	名 称				イ オ ン 化 式 ス ポ ッ ト 型	光 電 式 ス ポ ッ ト 型					煙感知器	イ オ ン 化 式 ス ポ ッ ト 型				光 電 式 ス ポ ッ ト 型
	1階リビング				1										良	
	1階 台所			1											良	
	1階宿泊室①				1										良	
	同上 収納室				1										良	
	1階宿泊室②				1										良	
	同上 収納室				1										良	
	2階宿泊室①				1										良	
	同上 収納室				1										良	
	2階宿泊室②				1										良	
	同上 収納室				1										良	

- 備考1 この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。
- 2 受信機の表示番号ごとに個数を記入すること。(受信機を設置する場合に限る。)
- 3 アナログ式及び自動試験機能付きのものは、階又は警戒区域ごとに設置されている個数を記入すること。

誘導灯及び誘導標識試験結果報告書

試験実施日 令和〇年 〇月 〇日

試験実施者

住 所 うるま市みどり町〇〇丁目〇番〇号

氏 名 うるま 太郎

用 途	(5) 項イ ・ 民泊 (旅館業)			延べ面積	190.00㎡	
階 数	地上 2階 地階 - 階					
器 具			設 置 個 数			
誘導灯	避 難 口 誘 導 灯		A 級	個		
			B 級	個		
			C 級	1 個		
	通 路 誘 導 灯	通路に設けるもの	A 級	個		
			B 級	個		
			C 級	個		
		廊下に設けるもの	A 級	個		
			B 級	個		
			C 級	個		
		階 段 等 に 設 け る も の		個		
客 席 誘 導 灯		個				
誘導標識	避 難 口 に 設 け る も の			個		
	通 路 等 に 設 け る も の			個		
試 験 項 目			種別・容量等の内容		結果	
外 観	誘 導 灯 一 般	設 置 場 所 等		—	良	
		構 造 ・ 性 能		—	良	
	避 難 口 誘 導 灯	設 置 場 所 等		—	良	
		外 形 寸 法		—	良	
		表 示 面		—	良	
	試 験	通 路 誘 導 灯	通路又は廊下に設けるもの	設 置 場 所 等	—	
外 形 寸 法				—		
表 示 面				—		
階段又は傾斜路に設けるもの			設 置 場 所 等	—		
			客 席 誘 導 灯	設 置 場 所 等	—	

誘導灯及び誘導標識

②

試 験 項 目			種別・容量等の内容	結果	
外 観 試 験	電 源	常 用 電 源	100V	良	
		非常電源（電気エネルギーにより光を発する誘導標識の電源であって、内蔵型のものを含む。）	種 別	蓄電池（内蔵型・別置型）・自家発電設備・燃料電池設備	良
			設置状況（内蔵型に限る）	—	
	誘 導 標 識	避難口に設けるもの	設 置 場 所 等	—	
			外 形 寸 法	—	
			表 示 面	—	
			※☆表示面の平均輝度	mcd／m ²	
			※設置場所の照度	lux	
		通路等に設けるもの	設 置 場 所 等	—	
			外 形 寸 法	—	
			表 示 面	—	
			※☆表示面の平均輝度	mcd／m ²	
			※設置場所の照度	lux	
機 能 試 験	電 源 の 自 動 切 替 試 験		—	良	
	切替作動試験	誘 導 灯 （消 灯 方 式）	消 灯 機 能	—	
		誘 導 灯 （点 滅 型）	点 滅 機 能	—	
		誘 導 灯 （内 照 点 滅 型）	点 滅 機 能	—	
		誘 導 灯 （誘導音装置付点滅型）	誘 導 音 機 能	—	
	連動停止試験	誘 導 灯 （誘導音装置付点滅型）	自動火災報知設備との連動停止	—	
放送設備との連動停止			—		
備考					

備考1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

2 選択肢のある欄は、該当する事項を○印で囲むこと。

3 結果の欄には、良否を記入すること。

4 非常電源 (内蔵型以外のもの) 及び配線についての試験結果報告書を添付すること。

5 総合操作盤が設けられているものにあつては、総合操作盤についての試験結果報告書を添付すること。

6 ※印の試験は、消防法施行規則 (昭和36年自治省令第6号) 第28条の2第1項第3号ハ並びに第28条の3第4項第3号の2及び第10号に規定する蓄光式誘導標識、「誘導灯及び誘導標識の基準」 (平成11年消防庁告示第2号) 第5第3号(5)に規定する高輝度蓄光式誘導標識に限る。

7 ☆印の試験は、「誘導灯及び誘導標識の基準」に適合しているものとして、総務大臣又は消防庁長官が登録した登録認定機関の認定を受けた旨の表示が付されているものにあつては、省略することができる。

氏 名 うるま 次郎

屋内消火栓設備 スプリンクラー設備 水噴霧消火設備 泡消火設備
不活性ガス消火設備 ハロゲン化物消火設備 粉末消火設備 屋外消火栓設備
自動火災報知設備 ガス漏れ火災警報設備 漏電火災警報器
消防機関へ通報する火災報知設備 非常警報設備 放送設備 誘導灯
排煙設備 連結送水管 非常コンセント設備 無線通信補助設備

試 験 項 目			種 別 ・ 容 量 等 の 内 容	結 果
外 観	電 源 回 路 の 開 閉 器 ・ 遮 断 器 等	設 置 場 所 等	――	
		開 閉 器	――	
		遮 断 器	――	
試 験	耐 火 耐 熱 保 護 配 線	保 護 配 線 の 系 路	電源回路・操作回路・表示灯回路・警報回路	
		電 線 の 種 類 ・ 太 さ	――	
		配 線 方 法	――	
		接 続	――	
		工 事 方 法	――	
	配 線（耐 火 耐 熱 保 護 配 線 を 除 く。）	電 線 の 種 類 ・ 太 さ	――	
		配 線 方 法	――	
		接 続	――	
	耐 震 措 置		――	
	機 能 試 験	接 地 抵 抗 試 験	電 圧 の 種 別	低 圧 ・ 高 圧 ・ 特 別 高 圧
接 地 抵 抗 値			Ω	
機 能 試 験	絶 縁 抵 抗 試 験	電 源 回 路	100V2MΩ	良
		操 作 回 路	V MΩ	
		表 示 灯 回 路	V MΩ	
		警 報 回 路	V MΩ	

備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とすること。
2 選択肢のある欄は、該当する事項を○印で囲むこと。
3 結果の欄には、良否を記入すること。

- 2 選択肢のある欄は、該当する事項を○印で囲むこと。
- 3 結果の欄には、良否を記入すること。

※その他、添付書類

①付近見取り図

②各階の平面図（各消防用設備等を平面図に図示）

③各消防用設備等の仕様書（※取扱説明書ではありません。）

④その他消防が求める資料

(記載例)

別記様式第 1

消 火 器 試 験 結 果 報 告 書

実施日 平成 3 0 年 6 月 1 2 日

実施者

住 所 東京都千代田区霞が関 2 - 1 - 2

氏 名 霞 太郎

印

用 途	(5) 項イ・民泊	構 造	耐火構造で内装制限したもの その他
延べ面積	2 0 0 m ² 必要能力単位	2	緩和対象の消火設備 有 無
付加設置部分の有無	有 (少量危険物・指定可燃物・電気設備・火気使用設備) 無		

階	用 途	消火器の種別及び個数							能 力 単 位			結 果			
		a	b	c	d	e	f	合計	A	B	C	適応性	設置場所等	標 識	機 器
1	宿泊室	1							3	7	○	○	○	○	○
2	宿泊室			1					3	7	○	○	○	○	○
合 計		1		1					6	14	○	_____			

備考

□「消防法施行令別表第一の項・具体的な用途」を記載します。



5 項イ：ホテルや旅館などの宿泊施設のことです。民泊のうち、人を宿泊させる間に家主が不在となるものや宿泊室の床面積合計が50㎡を超えるものはこの項に該当します。

5 項口：共同住宅や下宿、寄宿舎のことで、共用の廊下や階段、エントランスなどがある集合住宅をいいます。

16項イ：2以上の用途が存する複合用途のことです。5項ロの一部を5項イに転用した場合はこの項に該当します。

□ 「必要能力単位」の欄は「延べ面積÷１００」で得られた数値（小数点以下切り上げ）を記載します。



➤ 「構造」の別や「緩和対象の消火設備」の有無によっては、必要能力単位を減免することができますが、不明な場合は○をつけなくても結構です。

□ 建物全体が5項イとなる場合は建物全体の延べ面積を、16項イとなる場合は5項イ部分の床面積を記載します。

☐ 通常、「有」に該当する部分はありませんので、「無」に○をします。



➤ ガソリン（４０ℓ 以上）や灯油・軽油（２００ℓ 以上）を貯蔵している場合は「少量危険物」に○をつけます。

➤ その他、変電設備や業務用の乾燥機・調理器具などを設ける場合は、追加で消火器の設置が必要となる場合がありますので、管轄の消防署にご確認ください。

備考1 この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。

2 選択肢のある欄は、該当する事項を○印で囲むこと。

3 aは粉末消火器、bは泡消火器、cは強化液消火器、dは二酸化炭素消火器、eはハロゲン化物消火器及びfは水消火器をいう。また、能力単位C欄は、該当する消火器が設置してある場合に○印で記入すること。

4 付加設置すべき部分がある場合には、各階ごとに、用途の欄にその部分を記入すること。

5 結果の欄には、良否を記入すること。

(記載例)

別記様式第 1

消火器試験結果報告書

実施日 平成30年6月12日

実施者

住所

氏名

印

用途	(5) 項イ・民泊	構造	耐火構造で内装制限したもの	その他	
延べ面積	200m ²	必要能力単位	2	緩和対象の消火設備	有 無
付加設置部分の有無	有 (少量危険物・指定可燃物・電気設備・火気使用設備)				無

階	用途	消火器の種類及び個数							能力単位			結 果			
		a	b	c	d	e	f	合計	A	B	C	適応性	設置場所等	標 識	機 器
1	宿泊室	1							3	7	○	○	○	○	○
2	宿泊室			1					2	2	○	○	○	○	○
合 計		1		1					6	14	○	_____			

備考

備考 1 この用紙の大きさは、日本工業規格 A 4 とすること。

2 選択肢のある欄は、該当する事項を○印で囲むこと。

3 a は粉末消火器、b は泡消火器、c は強化液消火器、d は二酸化炭素消火器、e はハロゲン化物消火器及び f は水消火器をいう。また、能力単位 C 欄は、該当する消火器が設置してある場合に○印で記入すること。

4 付加設置すべき部分がある場合には、各階ごとに、用途の欄にその部分を記入すること。

5 結果の欄には、良否を記入すること。

□ 設置階数と当該階（設置する場所）の主な用途を記載します。

☐ 消火器の種別と設置個数を記載します。



- 消火器の種別は消火器本体に表示されています。
- 「粉末消火器」 は “a” の列に、
「強化液消火器」は “c” の列に個数を記載します。

☐ 消火器本体の表示を見て能力単位を記載します。



- C火災には能力単位がないので、Cと記載されていれば○を記載します。

A (火災)	木材、紙類、繊維などの普通火災 (B・C火災以外の火災)	
B (火災)	ガソリン・灯油・てんぷら油などの 油火災	
C (火災)	通電中のコンセントや配線などの 電気火災	

□「適応性」：消火器がA・B・C火災に対応していれば○を記載します。

□「設置場所等」：設置された消火器が以下の全てに適合していれば○を記載します。

- 各部分が歩行距離 20 m 以下となるように設置されている。
- 通行・避難に支障が無く、使用に際して容易に持ち出すことができる場所に設置されている。
- 床の上に置かれているなど、床面からの高さが 1.5 m 以下の高さに設置されている。
- 消火器本体に表示された使用温度範囲を超える場所には設置されていない。

(例：暖房器具の直近など。)

- 屋外廊下など、風雨がかかる場所に設置された消火器は格納箱に収納されている。

□「標識」：消火器付近の見やすい場所に標識が設置されている。

□「機器」：検定の合格証が添付され、変形や損傷がない。

＜消火器本体の表示例＞

業務用消火器	
粉末or強化液（ABC）消火器	
設計標準使用期限	2026年まで
製造年	2016年
能力単位	A-●・B-●・C
放射距離	3～6m
放射時間	約15秒
使用温度範囲	-30℃～40℃
薬剤質量	3.0kg
消火器の区分	蓄圧式
型式番号	消第〇〇～〇〇号

< 合格証 >



消火器
FIRE EXTINGUISHER



特定小規模施設用自動火災報知設備試験結果報告書

試験実施日平成30年6月15日

試験実施者

住所東京都千代田区霞が関2-1-2

氏名霞太郎印

用途	(5)項イ・民泊									
延べ面積	200 m ²		階数		地上2階地階0階					
受信機	蓄積式・二信号式・アナログ式・自動試験機能付き・遠隔試験機能付き・無線式・その他()									
	P・GP型		級		回線数		／		R・GR型	
	定格電圧		AC		V・DC		V			
	予備電源		NiCd・その他()		V		AH			
発信機	型		級		屋内型		個		屋外型	
	(無線式)		型		級		屋内型		個	
中継器	アナログ式・蓄積式・自動試験機能付き・遠隔試験機能付き・無線式・他()		回線		予備電源		有(V AH)・無		設置台数	
	アナログ式・蓄積式・自動試験機能付き・遠隔試験機能付き・無線式・他()		回線		予備電源		有(V AH)・無		設置台数	
	アナログ式・蓄積式・自動試験機能付き・遠隔試験機能付き・無線式・他()		回線		予備電源		有(V AH)・無		設置台数	
	アナログ式・蓄積式・自動試験機能付き・遠隔試験機能付き・無線式・他()		回線		予備電源		有(V AH)・無		設置台数	
	アナログ式・蓄積式・自動試験機能付き・遠隔試験機能付き・無線式・他()		回線		予備電源		有(V AH)・無		設置台数	
感知器	機		種		自		遠		種別	
	光電式		スポット型(無線式・連動型・警報機能付き)		○				2種	
	定温式		スポット型(無線式・連動型・警報機能付き)		○				特種	
	式		型()						種	
	式		型()						種	
	式		型()						種	
	式		型()						種	
	式		型()						種	
	式		型()						種	
	式		型()						種	
音響装置	種別		種類		電圧		電流		個数	
	主音響装置(内蔵されているものを除く。)				DC V		mA		個	
	副音響装置(内蔵されているものを除く。)				DC V		mA		個	
	地区音響装置				DC V		mA		個	
	放送設備との連動				有・無					
	鳴動方式		一斉鳴動							

(記載例)

無線式連動型警報機能付感知器(自動試験機能付)のみで構成される場合の記載例です。

- 

➤ 階数が3階層以上(地上3階建てや地上2階地下1階など)の場合や延べ面積が300㎡以上の場合(共同住宅の一部で民泊を行う場合で、民泊部分の床面積合計が延べ面積の10%以下である場合を除く。)には、原則として特小自火報は設置できません。

※ 配線でつなぐ方式の自動火災報知設備が必要となりますので、消防設備士の資格がないと設置できません。

※ 延べ面積が300㎡以上500㎡未満で、かつ、民泊部分の床面積合計が300㎡未満である場合には特小自火報を設置できますが、建物全体に設置が必要ですので、ご自身では設置せずに建物を管理されている方や消防設備業者と相談しましょう。

□「消防法施行令別表第一の項・具体的な用途」を記載します。

- 

5項イ：ホテルや旅館などの宿泊施設のことです。民泊のうち、人を宿泊させる間に家主が不在となるものや宿泊室の床面積合計が50㎡を超えるものはこの項に該当します。

5項ロ：共同住宅や下宿、寄宿舎のことです。共用の廊下や階段、エントランスなどがある集合住宅をいいます。

16項イ：2以上の用途が存する複合用途のことです。5項ロの一部を5項イに転用した場合はこの項に該当します。

□ 感知器の種別ごとに設置個数を記載します。

- 

➤ 煙感知器であれば「光電式スポット型」、熱感知器であれば「定温式スポット型」となります。

➤ 定温式(熱感知器)は台所(キッチン)に、光電式(煙感知器)はそれ以外の居室(宿泊室やリビングなど)や2㎡以上の収納・クローゼットに設置します。

➤ 「自」の欄は自動試験機能付であることを意味します。

➤ 「種別」は、説明書などで確認できます。

(平成30年12月時点で流通している特小自火報の感知器は、光電式であれば2種、定温式であれば特種のみです。)

- 

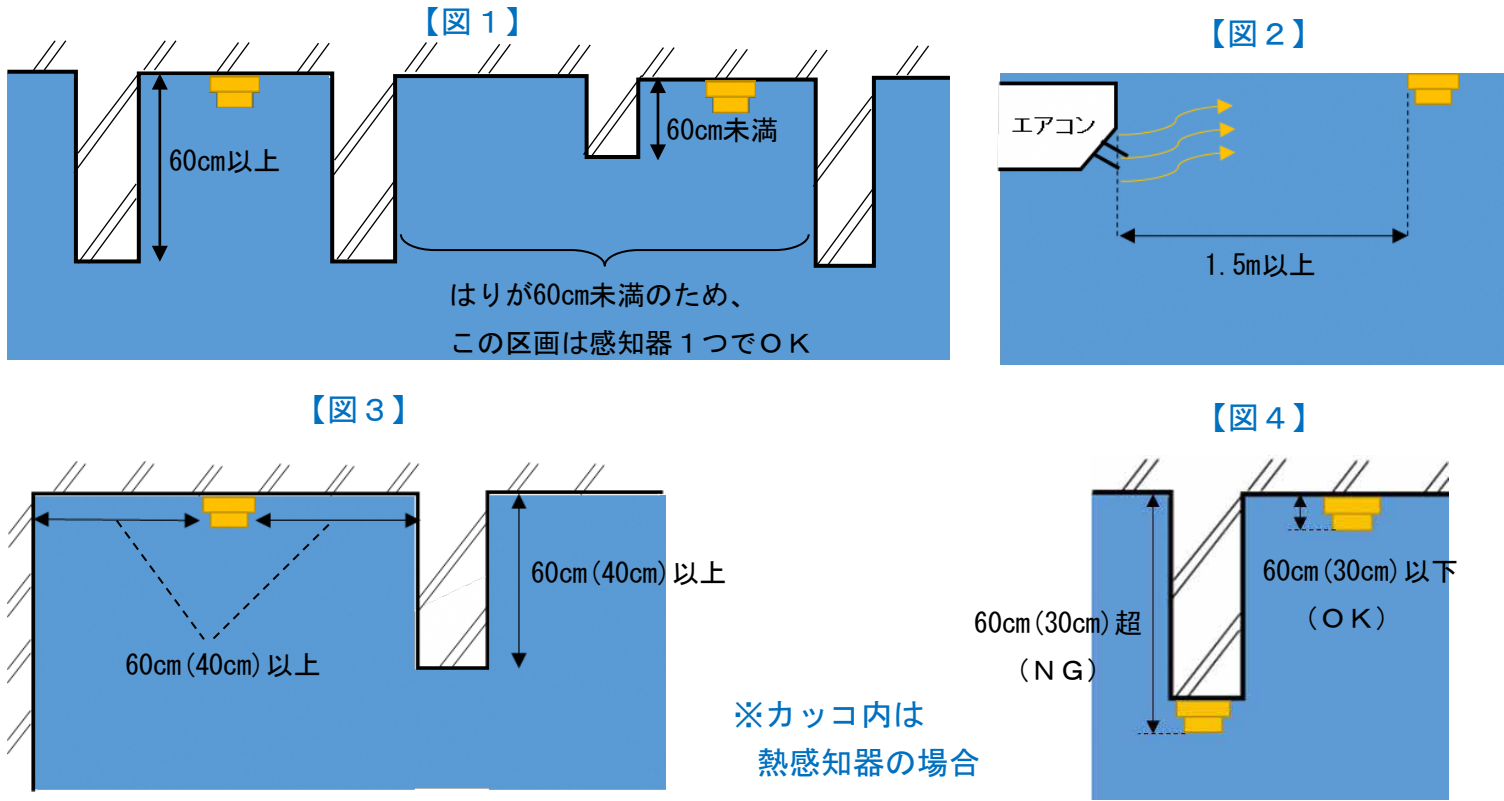
➤ 全ての感知器が一斉に鳴るので、一斉鳴動に○をします。

試 験 項 目			種 別 ・ 容 量 等 の 内 容	結 果
外 観	警戒区域	警 戒 区 域 の 設 定	_____	○
	受信機	設 置 場 所 等	設 置 場 所	
			周 囲 の 状 況 ・ 操 作 性	_____
			設 置 状 況	_____
		構 造 ・ 性 能		_____
			操 作 部	床面からの高さ _____ m
		予 備 品 等		_____
	中継器	設 置 場 所 等		
		構 造 ・ 性 能		_____
		予 備 品 等		_____
試 験	電 源 (電池を除く。)	常 用 電 源		AC _____ V
		非 常 電 源 の 種 別		非常電源専用受電設備・蓄電池設備
	感 知 器 警戒状況・設置状況・構造・性能	差 動 式 ス ポ ッ ト 型		
		定 温 式 ス ポ ッ ト 型		_____ ○
		補 償 式 ス ポ ッ ト 型		
		熱 複 合 式 ス ポ ッ ト 型		
		熱アナログ式スポット型		
		煙感知器（アナログ式を除く。）		_____ ○
		イオン化アナログ式スポット型		
		光電アナログ式スポット型		
		熱煙複合式スポット型		
		炎 感 知 器		
	発信機	設 置 場 所 等		
		構 造 ・ 性 能		
	表示灯	設 置 場 所 等		
		構 造		
	地区音響装置	設 置 場 所 等		
		構 造		

□ 建物は2階建て以下なので○を記入します。

- 取り付けた熱感知器が以下の全ての項目に適合していれば○を記入します。
- 台所（キッチン）付近の天井に設置されている。
 - エアコン等の吹出し口から1.5m以上離して設置されている。【図2】
 - 壁や梁（はり）から40cm以上離して設置されている。【図3】
 - 点検や電池交換などの維持管理ができる場所に設置されている。
 - 感知器の下端は、天井面の下方30cm以内である。（はりの下面に設けられていない。）【図4】
 - 説明書などに記載された感知器の使用温度範囲（通常は－10℃～50℃程度）を超える場所には設置されていない。（例：暖房器具の熱風を直接受ける場所など。）

- 取り付けた煙感知器が以下の全ての項目に適合していれば○を記入します。
- 宿泊室やリビングなどの居室、2㎡以上の収納の天井に設置されている。
 - 居室が可動式の間仕切り（カーテンなどは除く。）や天井から60cm以上突出したはりで区画された部分ごとに感知器が設置されている。【図1】
 - エアコン等の吹出し口から1.5m以上離して設置されている。【図2】
 - 壁や梁（はり）から60cm以上離して設置されている。（小規模な収納などで四方の壁から60cm離すことができない場合は、可能な限り壁から離れた中央部分に設置されている。）【図3】
 - 点検や電池交換などの維持管理ができる場所に設置されている。
 - 感知器の下端は、天井面の下方60cm以内である。（はりの下面に設けられていない。）【図4】
 - 上記全ての条件を満たした上で、できる限り居室の出入口に近い場所に設置されている。



(記載例)

特定小規模施設用自動火災報知設備

③

試験項目			種別・容量等の内容	結果	
機能試験	配線	共通線試験	_____		
		送り配線試験	試験回線 — 1	_____	
			試験回線 — 2	_____	
			試験回線 — 3	_____	
	無線設備		通信試験	_____	○
	受信機	火災表示試験	火災表示状況	_____	
			保持機能	_____	
			2信号式の機能	_____	
			蓄積式の機能	_____	
		注意表示試験	注意表示状況	_____	
		設定表示温度試験	設定表示温度等	_____	
		回路導通試験		_____	
		同時作動試験	常用電源使用時	_____	
			予備電源使用時	_____	
		感知器作動試験	自動試験機能を有するもの	_____	
	遠隔試験機能を有するもの		_____		
	予備電源試験	電源自動切替機能	_____		
		電圧	V		
	非常電源試験	電源自動切替機能	_____		
	付属装置試験		_____		
	中継器	相互作動試験	相互通話状況	_____	
			地区音響装置鳴動状況	_____	
		設定表示温度試験	設定表示温度等	_____	
回路導通試験		_____			
予備電源試験 (予備電源を有するもの)		電源自動切替機能	_____		
		電圧	V		
感知器作動試験		(その2)による			
発信機作動試験		_____			
地区音響装置		鳴動方式試験	_____		
		作動試験	(その2)による		
備考	連動型警報機能付き感知器使用で警戒区域は1のため（その2）の警戒区域名称部には感知器設置場所を記載する。				

☐ 説明書などに記載された方法により無線の通信試験を行い、異常警報・表示がなければ○を記入します。

➤ 感知器の作動試験結果は次ページ（その2）に記載します。

備考 1 この用紙の大きさは、日本工業規格 A 4 とすること。

2 選択肢のある欄は、該当する事項を○印で囲むこと。

3 非常電源（内蔵型以外のもの）及び配線についての試験結果報告書を添付すること。

4 蓄積式中継器の機能試験は、感知器の作動試験及び発信機の作動により確認するものとする。

5 複合式の感知器の試験は、それぞれの種別に応じて行うものとする。

(記載例)

特定小規模施設用自動火災報知設備

(その2)

[illegible]

□ 添付図面の室名称に合わせて感知器の設置場所を記載します。

☐ 感知器の設置個数を記載します。

□ いずれかの感知器を操作し、全ての感知器が連動すれば○を記載します。



➤ 操作（試験）方法は説明書などで確認しましょう。

備考1 この用紙の大きさは、日本工業規格A4とすること。

2 受信機の表示番号ごとに個数を記入すること。(受信機を設置する場合に限る。)

3 アナログ式及び自動試験機能付きのものは、階又は警戒区域ごとに設置されている個数を記入すること。